

事業番号	04 09 22	事業改善シート（24年度実施事業分）		<input type="checkbox"/> 予算要求	<input type="checkbox"/> 予算案	■ 点検
事業名	信濃学園運営事業			担当課	部局	健康福祉部
<参考> 総合5か年計画	プロジェクト			課・室	障害者支援課	
	施策の総合的展開	6-2 いきいきと安心して暮らせる社会づくり 2 障害者支援の充実		E-mail	shogai-shien@pref.nagano.lg.jp	
				実施期間	S26	～

1 事業の概要

目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> 県内唯一の知的障害児の入所施設としてセーフティーネットの役割を担い、入所利用者個々のニーズに応じた療育及び自立訓練等の支援を充実し、それぞれが希望する生活ができることを目指す。 在宅の知的障害児の療育環境の整備と継続に必要な支援を行い、自立と地域生活の継続を目指す。 	
現状	<ul style="list-style-type: none"> 障害の重度化など家庭療育が困難な児童、被虐待児童等の入所利用者が増加していることや、グループホーム等の受入先が満床であること等から、地域生活への移行が厳しい状況にある。引続き関係機関と連携し、地域生活移行を推進していく必要がある。 日中一時支援事業及び在宅障害児の療育支援相談会「こまぐさ教室」等により、在宅障害児の療育支援に努めている。 	
県が関与する理由	<input type="checkbox"/> 法令等義務 <input type="checkbox"/> 内部管理 <input type="checkbox"/> 県でなければ実施不可 <input checked="" type="checkbox"/> 民間、市町村でも実施可能だが、県関与の必要性有 <input type="checkbox"/> その他()	【左記の説明、根拠法令等】 重度の障害児や被虐待児の受入れ等、県内唯一の障害児入所施設として、セーフティーネットの機能を果たす必要がある。

事業内容	① 成果目標(H24)					
	<input type="checkbox"/> それぞれが希望する生活への移行(移行者数:2人/年) <input type="checkbox"/> 在宅障害児への療育支援(こまぐさ教室参加者数:72人/年)					
	② 事業内容 (単位:千円)					
	項目	実施方法	H24事業実績		H24	H25
				(当初)	(決算)	(当初)
	指定管理委託料	委託	信濃学園の管理運営を指定管理者((社福)長野県社会福祉事業団)に委託する。	177,784	180,142	165,915
	指定修繕委託料	委託	共用スペースにエアコンを設置する。	-	-	1,401
	厨房用給湯ボイラー更新	直営	老朽化した厨房用給湯ボイラーの更新。	1,092	1,040	-
	公用車更新	直営	更新基準を満たした公用車の購入。	-	-	2,311
			合計	178,876	181,182	169,627

事業コスト	区 分(単位:千円)	22年度	23年度	24年度	25年度	成果目標の達成状況					
	前年度繰越					項目	現況(見込)	H24			H25 目標
	当初予算	61,566	301,126	178,876	169,627			目標	成果	達成状況	
	補正予算	1,383	-2,844	4,851		移行者数	5人	2人	2人	達成	2人
	合計(A)	62,949	298,282	183,727	169,627	こまぐさ教室参加者数	65人	72人	72人	達成	72人
	国庫支出金	9,770	16,116	24,426	14,490	入所者数(人/年平均)	22.2	26.3	28.3	達成	29
	県債										
	その他()	33,507	106,562	1,224	2,430						
	一般財源	19,672	175,604	158,077	152,707						
	決算額(B)	56,430	297,621	181,182							
概算職員数(人)	44.50	0.50	0.50	0.50							
概算人件費(C)	370,107	4,129	4,129	4,129							
概算事業費(B(A)+C)	426,537	301,750	185,311	173,756							

目標に対する成果の状況	個別支援計画に基いた支援により、利用者一人ひとりのニーズに応じた専門的支援の提供を行った。 早い段階での関係者によるケア会議等の実施により、早期の地域生活移行プログラムの作成に努め、2名が地域生活等に移行した。 在宅障害児の療育支援として「こまぐさ教室」の相談会を8回(参加者35名)、公開講演会を1回(参加者37名)開催した。
-------------	--

2 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか。	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施 <ul style="list-style-type: none"> 入所利用者個々のニーズに応じた処遇向上や地域生活移行の促進、在宅障害児の支援の充実を努める。 H23年度から導入した指定管理者制度により、引続き民間能力を活用した効率的な運営を行う。
---------------------	---